

令和6年度 公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会事業報告

I 公益事業

1 家庭科技術検定に係る改定（令和6年4月25日開催、第40回理事会において承認）

- (1) 級の改定 () 内は改定前
3 (4)、2 (3)、準1 (2)、1 級に改定
- (2) 受検料の改定（被服製作及び食物調理技術検定を対象とし、保育技術検定は改定しない） () 内は改定前
3級 900 (800) 円、2級 1,100 (1,000) 円、準1級 1,700 (1,500) 円、1級 2,200 (2,000) 円

2 家庭科教育に関する調査研究

(1) 進路調査研究委員会による進路状況調査・研究

全国の家庭に関する学科卒業者の進路状況を経年的に調査・分析し、大学・短期大学・専門学校・企業等への要望に生かすとともに、資料としてまとめて発表し、主として家庭学科設置校の校長や教員の進路指導に資することができた。

〔調査期間〕 7月1日から7月31日

〔内 容〕 家庭学科設置校等対象に卒業生の進路状況調査とその研究

(2) 技術検定調査研究委員会による調査研究

○テーマ

学習指導要領を踏まえた保育技術検定の在り方 ～共通教科「家庭」の保育に係る指導の充実に向けて～

○調査研究の趣旨

「生きて働く知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の3つを柱とした高等学校学習指導要領は、令和6年度に完全実施年となった。そこで、共通教科「家庭」の保育に関する指導の現状及び保育技術検定に関する現状と課題について、アンケート調査により把握することとした。これらの結果をもとに、分析・考察をし、報告書にまとめることにより、学習指導要領の「よりよい実施」に向け、保育に係る指導の充実を資することとした。併せて、実践的・体験的な教育活動をもとにした、実技試験を伴う保育技術検定の振興に資することをねらいとする。

○委員会開催日 6月25日（火）、9月25日（水）、10月28日（月）、2月18日（火）

3 研修会・講演会・研究会

(1) 全国高等学校家庭科実践研究会（群馬大会）

全国の家庭科教員が参加し、教科調査官や開催県の優れた実践事例の発表や地域の特色を生かした講師を招聘しての講演・実習・演習・見学などを行い、教員の資質向上、家庭科教育の一層の充実・発展を図ることができた。

〔期 日〕 8月8日（木）・9日（金）

〔会 場〕 Gメッセ群馬 他

〔参加者〕 全国の高等学校の家庭科教員等 約200名

(2) 家庭科技術検定全国専門委員会

家庭科技術検定の円滑で適正な実施のため、家庭科技術検定全国専門委員の教員が一堂に会し、技術検定の評価方法や運営の在り方について意見交換・研究協議し、併せて、監修者や文部科学省等による指導・講評を受けるなど、家庭科における実技指導等を中心とした教育の在り方の研修機会を設けた。これにより、教員の資質向上、家庭科教育の改善・充実を図ることができた。

〔期 日〕 5月28日（火）・29日（水）

〔会 場〕 東京 ホテルメトロポリタンエドモント

〔参加者〕 全国の家庭科教員等 約200名

(3) 家庭科技術検定代表理事会

各都道府県の技術検定代表理事が、家庭科技術検定の円滑な実施及びその推進等について協議し、家庭科技術検定の振興を図ることができた。

〔期 日〕 5月24日（金）

〔参加者〕 各都道府県検定代表理事 37名

〔Web開催〕

4 関係団体と連携した機関誌「家庭部会報」の刊行

調査研究の報告、研修会・研究大会の報告、表彰の結果、技術検定受検者と合格者の動向などの振興会事業について記録・編集し、本年度も7月、1月の年2回、全国の高等学校並びに関係機関に配付した。

5 家庭科技術検定の実施

高等学校等で家庭に関する科目を履修する全国の高校生等を対象に、高等学校学習指導要領に基づき、家庭科に関する知識、技術・技能など、その学習の到達度を測る目的で検定を実施した。生徒の目的意識が明確になり、知識、技術・技能の定着のみならず、学習意欲やチャレンジする力、段取り力を高めることができた。また、教員に

とつても客観的な技能の評価が確立され、この検定は、全国一斉に同一問題で実施し、多くの生徒に受検の機会を確保するため、受検料は低価格に設定している。受検者は高校生の他、特別支援学校や高校と技能連携する専修学校生徒も受検できる。なお、技術検定の実技試験の指導のための教員用テキストを毎年改訂しており、本年度も作成・配付した。

＜技術検定の実施日程＞

- 第59回被服製作・食物調理技術検定、第47回保育技術検定
[実技試験] 4～1級：5月18日～8月31日
[筆記試験] <被・食> 3・2級：6月21日、1級：7月5日 <保> 2・1級：6月28日
- 第60回被服製作・食物調理技術検定、第48回保育技術検定
[実技試験] 4～1級：9月14日～1月19日
[筆記試験] <被・食> 3・2級：11月15日、1級：11月29日 <保> 2・1級：11月22日

6 関係団体と連携した家庭科教育の振興に寄与した者の表彰

- (1) 教員表彰 高等学校において家庭科教育に従事した教員で、技術検定委員やその他家庭科教育に功績が顕著な者の表彰を家庭部会と連携して行い、表彰状と記念品を授与しており、令和6年度は38名。
- (2) 「三冠王」の表彰（被服製作〔和服・洋服〕・食物調理技術検定1級すべてに合格した生徒）
 - ①個人表彰 被服製作和服1級・洋服1級、食物調理1級のすべてに合格した生徒を「三冠王」と称し、昭和57年度に顕彰制度を設けており、2月に彰状並びに記念品を授与した。
[表彰者数] 令和元年度897名、2年度825名、3年度812名、4年度727名、5年度597名、6年度638名
 - ②団体表彰 令和4年度に新設し、三冠王取得者が最も多い高等学校等に表彰状と記念品を贈呈しており、令和6年度は広島県立海田高等学校。
- (3) 「四冠王」の表彰（被服製作〔和服・洋服〕・食物調理・保育技術検定1級すべてに合格した生徒）
 - ①個人表彰 被服製作和服1級・洋服1級、食物調理1級と保育1級のすべてに合格する生徒が、平成18年度に誕生した。これらの生徒を対象として平成18年度に「四冠王」の顕彰制度を設け、2月に彰状並びに記念品を授与した。
[表彰者数] 令和元年度45名、2年度58名、3年度66名、4年度58名、5年度33名、6年度50名
[参 考] 平成18年度7名、19年度14名、20年度31名、21年度46名。
 - ②団体表彰 令和4年度に新設し、四冠王取得者が最も多い高等学校等に表彰状と記念品を贈呈しており、令和6年度は鹿児島県立薩南工業高等学校。

II 収益事業

1 技術検定にかかわる教材の作成・販売

家庭科技術検定を円滑に実施するため、生徒用教材及び教員が指導するための各種教材を作成・販売した。

- (1) 問題集：被服製作・食物調理技術検定に対応した家庭科問題集「基礎編」、「被服編」、「食物編」を作成し、約23,800冊を販売した。「基礎編」は3級、「被服編」・「食物編」は1・2級のための学習支援教材である。
- (2) 保育技術検定過去問題集：保育技術検定1・2級用筆記試験の「過去問題集」を作成し、約1,800冊販売した。
- (3) 被服製作技術検定資料集：技術検定実技試験や被服製作実習のための学習支援教材として作成・販売し、約1,400冊販売した。
- (4) 食物調理技術検定資料集：指定調理例（材料・作り方及び評価規準）、質疑応答集を掲載し、各検定実施校が統一した指導と評価ができることを目的に編集し、約500冊販売した。
- (5) 型紙：被服製作技術検定3級及び2級（和服・洋服）、並びに被服製作技術検定（洋服）1級のジャケット（女子用）の型紙を約15,800部販売した。
- (6) 被服製作・食物調理・保育技術検定用のDVD：検定受検、基礎的・基本的技能・技術の習得及び指導者のための学習支援教材としてDVDを約50枚販売した。（周年記念事業の一環として、令和4年度検定実施校及び家庭部会会員校には令和5年4月に無償配付。）

2 高等学校家庭科の指導にかかわる教材の作成・販売

○「楽しく学べるマナーの基本」（「私たちのエチケット」完全リニューアル版：平成30年度初版）

高等学校の家庭科の授業や特別活動などでの生活文化の学習やマナーに関する実習等に活用する副教材として、出版社と提携して「楽しく学べるマナーの基本」を作成し販売した。印税収入として扱っている。

3 その他の事業

- (1) 駐車料収入：1階のスペースを駐車場として近隣の企業や店主に貸し出した。
- (2) 家庭部会業務委託：全国高等学校長協会家庭部会から業務委託され、家庭部会の様々な事業を担当した。
- (3) 会議室収入：3階の会議室を東京都公立高等学校長協会事務局に貸し出した。